

大学生の読書量と自我形成の関係性

同志社大学 文学部 社会学科 社会学専攻

12002047

大深 由紀子

2004年 3月

担当教官 立木 茂雄

大学生の読書量と自我形成の関係性

要旨

第1章 序論 - 研究の背景 -

第2章 先行研究の展望

第1節 読書の歴史

第1項 明治維新前後の読書

第2項 「音読」から「黙読」へ

第3項 選択する読書

第4項 人々を組織化する読書

第5項 現在の読書

第2節 読書と自我形成における実証的研究

第3節 読書の価値の捉え方

第4節 研究方法の展望

第3章 調査

第1節 調査用具

第1項 読書に対する意識を測る尺度

第2項 自我発達を測る EIS 得点と捉え方

第3項 その他の質問項目

第2節 調査の枠組み

第1項 調査対象者

第2項 データ分析の展望

第3節 調査の具体的手続き

第4章 結果

第1節 大学生はどんな本に普段触れているのか。

第1項 漫画・雑誌

第2項 書籍

第3項 第1節のまとめ

第2節 実際の因子分析

第3節 仮説の検証

第5章 考察

第1節 社会圏としての読書

第2節 これからの読書

付録

参考文献・引用文献リスト

要旨

読書は、自らの世界を広げ、人間の自我形成に良い影響を与えと言われてきた。しかし、現在読書量は減りつつあると言われている。それは新聞社が行う読書調査でも顕著であり、そのことを社会は憂いている。

様々な読書指導が、学校でも行われるようになったが、私はある疑問を抱くようになった。それは、「本当に読書は自我形成に良い影響を与えているのだろうか。」ということである。読書は自我形成に影響を与えると言うが、それは経験的に述べられてきたことであり、何らかの尺度で測られたものではないからである。

そこで私は、ジンメル（G. Simmel）の社会分化論を参考に仮説をたて、大学生に対して調査を行った。その結果、読書が自我形成に良い影響を与えることは明らかであり、それらには 2 つの精神機能が大きく作用していることが立証された。

第 1 章 序論 - 研究の背景 -

現在の社会において、月間読書量減っているようだ。少子化という問題ではなく、一人当たり読む本の冊数が減っているのである。（毎日新聞東京本社広告局 2003）以前、読書というのは立派な娯楽であった。しかし、現代における読書の娯楽的地位は、テレビゲームやインターネットの発達におされ、以前ほどの地位は守られていない。

だが、読書は無駄なものとは認識されていないようだ。その証拠として、小中高校では朝の何分かを読書に当てる「朝の 10 分間読書運動」を行っているし、幼稚園・保育園では「読み聞かせ」が盛んなのである。表現力や想像力を育み、豊かな人間を育成するのが目的だという。また、社会人に目を向けると、『声を出して読む日本語』のブームからわかるように、にわかに日本語や文学への関心は高まっているのだ。

これまで、読書は教育の場で利用されることが、多かった。この歴史については、第 2 章の先行研究で詳しく述べている。現代においても、読書は教育の場で用いられることは多い。例えば、小中高校では、朝の 10 分間に自分の選んだ本を静かに読むといったルールしかない、朝の 10 分間読書運動が広がっている。しかし、大学生には、読書指導がおこなわれていない。また、昨今の大学生は、読書離れを、盛んに指摘されている。例えば、渡

辺が行った調査によると、現在の学生の読書への関心は、講義に関連した図書、しない図書とともに「ほとんど読まない」一番多く、前者 48.8%、後者 38.1%となっている。また、自分が一番読書をしなかった時期を、大学時代とした回答者の 53.1%が、読書をしなかった理由にアルバイトをあげ、47.4%が友人との付き合いを挙げている。(渡邊 1999)つまり、渡邊の研究からも、大学生は読書より、アルバイトや友人との付き合いに関心があると言える。

しかし、読書をしないという大学生に危機感をもつ社会に対して、私はひとつの疑問を抱くようになった。それは、読書は本当に自我の発達において、価値のあるものなのだろうかということである。

思えば、小学生の時から、本を読むことをさまざまな人に進められたように思う。例えば、夏休みに読書感想文を書いたり、国語の授業を受けたりすることもそうだ。そういったことを進めてくる人々は、みんな一様に「本を読みなさい、本は自分を広げるものだから。」と書いていたように思う。そんな言葉を、当時の私は何の疑いもなく聞いていたのだが、本を読んでも、自分が広がるといった感覚がわからず、宿題があるときだけ本を読むような子どもだった。

そんな私が、読書を、進んで行うようになったのは、大学入学時からだ。最初は、長い通学時間の単なる暇つぶしであった。しかし、そんな読書は、今までに訪れたことのない世界や、作者の想像の世界、様々な考えを私に教えてくれたし、作者に共感したり、自分とは意見が食い違うことがあることを通じ、自分の世界が広がっていくのを感じたりした。

また、自我というものを意識しだしたのも、遠藤周作という作家に出会ったことが、大きな要因であったように感じる。彼は、『ぐうたら社会学』や『勇氣ある言葉』などのユーモラスなエッセイを執筆するときは自分のことを狐狸庵と呼んだ。私は、『満潮の時刻』、『海と毒薬』などのシリアスな小説とのギャップと、自分の明と暗の部分をさらけ出している彼に驚いた。しかし、私はそういう弱さもありのままに表現する彼の姿勢が好きで、親近感を持っていた。また、明と暗の部分があればこそ、両方における良いところが、よりいっそう際立っているのではないかと感じていた。誰でも明と暗の部分は持っていると思うし、実際、エッセイを書く自分と小説を書く自分、どちらとも本当の自分だと彼は、エッセイの中で書いている。これを読んだとき、私は自我というものは、決してひとつでは図れないものなのだと感じた。

このように、読書は、私にとってただ文字を追うものではなく、作者との対話であり、

本を通して私だけに語りかけてくれる場となった。また、書籍という形をとってはいるものの、作者自身が今までの人生で培われたものに触れ合う事でもあったように思う。言い換えれば、私は作者が形成する社会に、一個人としてミクロ関わりをもっていたのである。今思えば、小学生のあの頃、言われたことの意味がわかってきたように思うが、それは私自身が経験的に感じたことであって、何らかの尺度で測ったものではない。しかし、読書をしないという大学生に危機感をもつ社会に直面して、私はこの疑問をぜひ明らかにしてみたいと思った。

ジンメルは、社会圏という概念をよく用い、社会の拡大と分化は、社会圏の多面的な文化と個人のそれらへの分化を意味すると述べた。さらに、個人は分属する圏の増加に伴って、いわば社会圏の交点として、自己において社会圏を交錯させ、独自の個性を示し、強固な自我意識を持つようになるとも述べている。(社会分化論) つまり、個人は、多くの社会の圏に触れることで、個人は個性を示し、強固な自我意識を持つということだ。それならば、この理論において、社会圏という概念に、読書で得られる世界を当てはめることで、読書をしている人は、自我が確立しているという仮説が導き出せる。これは、読書と字が形成の関係を、心理学ではなく、社会学として捉える理由でもある。なぜならば、前にも述べたように、読書をすることによって、著者と共有する社会をいくつも持つことになるからである。

大学は、誰も強制しないかわり、自ら考え行動することを要求される場だ。現在、小中学校や高等学校で、実施されている朝の読書運動のように読書も時間を区切って実施されない。すなわち、読書をしようとする意識が重要になってくる。このような、大学生の生活にも、興味を抱き、調査対象者を大学生に決めた。方法としては、3回生次に取り組んだ社会調査実習を生かすために、質問紙調査の後、SPSS 調査を行おうと思う。

以上より、本論文では、調査対象者を大学生とし、読書をより多くしている人は自我がより確立しているという仮説の検証を目的とする。

第2章 先行研究の展望

第1節 読書の歴史

読書は、これまでの日本で教育の一環として取り入れられることが多かった。本節では、その読書の歴史について述べていきたいと思う。

第1項 明治維新前後の読書

『近代化と「読み」の変遷』（慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 2001）を記した、山梨あやは、日本における読書の歴史について言及している。山梨によると、「読む」行為は、「音読」と「黙読」に二分されており、「黙読」が普及する以前の、「音読」という読みの形態は、四書五経や論語などの入門的教材を、音読して暗誦するという形で取り入れられていた。長い間日本人の知識形成は、儒教を根本とする漢籍・漢学の学習を通じて行われ、この学習は人格形成の役割をも担うものであった。ここでは、教材の意味そのものの理解より、まず、教材そのものを記憶し、身体化することが求められる段階であった。しかし、知識人階層以外の読書形態は、家中での音読や拾い読み、読み聞かせなど、音読による「共同的」なものが多かったようだ。なぜならば、読書に耐えうるリテラシーのあるものが少なかったからである。さらに女性が「読む」という行為から、疎外されていたことが伺える。（山梨 2001）

その後、明治維新前後に活版印刷技術が導入したことにより、大量印刷が可能になり、読みの形態が大きく変化した。そしてリテラシーの向上と伴い、新聞が徐々に普及していくことによって、新聞は伝統的知識人と、その子ども世代のみならず、かつては有力な「読者」ではなかった人々に「読む」習慣を定着させ、彼らを新興の読者層として「読む」行為に参入させる役割を果たしていた。その一方で、人々は新聞をどのように読んでいたかといえば、新興読者だけでなく、新聞を読みこなすリテラシーを具えた知識人においても、「音読」の習慣が根強く生き残っていたものと考えられる。つまり、階層を問わず何らかの形で、「音読」することが一般的であり、その傾向が長く続いたのである。（山梨 2001）

第2項 「音読」から「黙読」へ

それでは、「音読」に代わって、「黙読」が普及した過程は、どういったものであったのであろうか。それは、図書館によるものが大きい。図書館で「音読」が禁止されている以上、「読み聞かせ」は不可能であり、一人で文字を読むに足るリテラシーのない者にとっては、図書館は遠い存在であった。このように、図書館という公共性の高い施設の整備によって、黙読という読みの形態は人々の間に徐々に浸透していったと考えられる。音読と黙読の力関係が逆転し、黙読が優位となったのは、印刷技術の向上、就学率の向上に伴うリテラシーの向上によって、文字文化が確立した明治30年代であると考えられている。(宮島 達夫 1996) この頃になると、公共の場における音読に対して人々は従来のような寛容さが無くなり、これを白眼視する傾向が見られるようになった。(山梨 2001)

第3項 選択する読書

明治30年代には、学歴による階層間の移動も固定化しつつあり、学問による立身出世、社会的上昇をいさめなければならなかった影響があったようだ。それでも、正系の立身出世コースから外れた人々が社会的地位の上昇を諦めたわけではなく、そのような人々の「立身出世」や「成功」に対する意図を汲み取り、「正系」のコースに参入する手立てを講じ、紹介するものとして登場したのが、『成功』や『向上』などの雑誌である。(雨田 1988) 結果的に、これらの雑誌、書籍の論調は各々の分限に応じた能力の充実、進歩発展を促すものに収束していくことになる。このように、いずれの階層を対象としても、読む対象となる本を自ら選択すること、また、これらを「批評的な態度を以って」読むことが奨励された。かつての「音読」における、「素読」様に、与えられたテキストを、全面的に正しいものとして身体化していくことが当然であった享受的な読書は、「読む」行為に関して常にこの行為を行う「自己」を問う選択的な読書へと変質していく。(山梨 2001)

第4項 人々を組織化する読書

明治30年代に流行した家庭小説は、小説に書かれた「あるべき過程の姿」が読者の趣味

を高め、小説中の道徳的思想が、一等国たるにふさわしい高尚な思想をもたらすものと捉えられていた。また、家庭小説は健全なる家庭を育成する一家団欒の一助であり、健全な思想を培う手段として、家長が家人に読み聞かせる「音読」が想定されるものであった。そして、中等家庭およびその構成員が組織化された。一方、少年小説は「黙読」される個別的な読みの対象でありつつも、これを読む中等階層の少年たちに、「われわれ」意識に基づく読者共同体を創出した。(成田 1994) このように、この時代の読書は、価値観を共有する目的をも併せ持ったものであったと考えられる。(山梨 2001)

第5項 現在の読書

現代は情報化社会と言われており、出版物も非常に多様化している。また、読書は教育の一環として見直されつつあり、『声を出して読む日本語』(齊藤 2002)がベストセラーとなり、小中高校では、朝の10分間読書が行われている。特に、朝の10分間読書は、短気な児童が穏やかになり、感受性豊かな個性的な子が増えたという効果が見られているようだ。(林・高文研編集部 1996)

しかし、大学生はそういった読書を促される場所が無い。それを反映してか、例えば、序論でも述べたように、渡辺が行った調査でも、現在の学生の読書への関心は、講義に関連した図書、しない図書とともに「ほとんど読まない」一番多く、前者48.8%、後者38.1%となっている。また、自分が一番読書をしなかった時期を、大学時代とした回答者の53.1%が、読書をしなかった理由にアルバイトをあげ、47.4%が友人との付き合いを挙げている。(渡邊 1999)つまり、渡邊の研究からも、大学生は読書より、アルバイトや友人との付き合いに関心があると言える。

本は「当然読むべき」ものから、「別に読まなくてもいい」ものへと変化してしまったのである。(齋藤 2002)

第2節 読書と自我形成における実証的研究

読書については、様々な研究が行われ、論文が発表されている。例えば、どんな本をどんな人がどれだけ読むかという調査(毎日新聞社 2003 など)などである。

大学生を対象にした質問紙を用いた実証調査では、序論でも述べたように、大学生の活字離れは深刻であり、読書よりもアルバイトやサークル活動、友達との付き合いに忙しいといった調査報告もある。(佐藤 1993, 渡邊 1999)

渡辺の調査によると、大学生の読書離れは、ある程度進んでいると思われるが、読書に対する印象がよいという結果が得られている。しかし、読書は必ずしも安楽なこととは捉えられてはいないようだ。また、実用書や娯楽小説に対する志向が伺えるが、そればかりではない哲学的な読書も存続しているということが明らかになっている。(渡辺 1999)

この実用書や娯楽小説志向ということについて、平賀の行った研究が挙げられる。平賀は、大学生の読書実態調査を行っている。将来における自由時間の過ごし方では「旅行」の次に「読書」があり、8割の学生が教養を高めるためには読書が必要であると回答しているにもかかわらず、1日の読書の平均時間は62分、1ヶ月の平均本代は1156円、1ヵ月平均4冊の読書量であることにより、予想していたほどには読書をせず、読書と読書観の分離がみられること、また読まれている作品の大半は現代作家のものであり、ごく手ごろなものを手にしている傾向が強いことを挙げている。(平賀 1973)

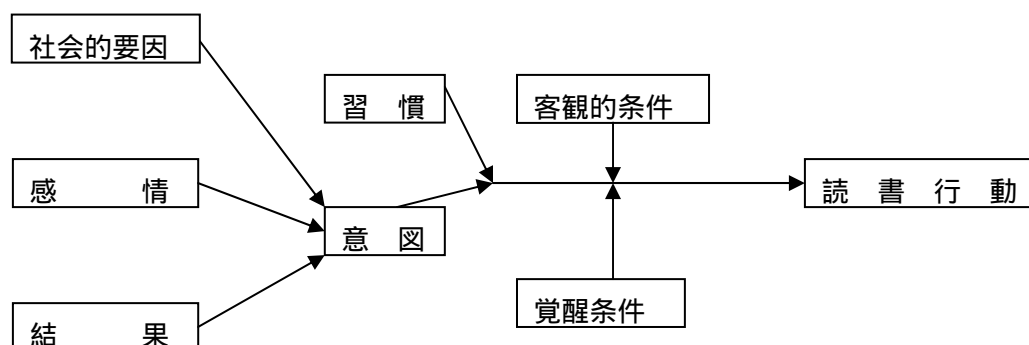


図1 和田の読書行動モデル

さらに、読書行動には、読書モデルが既に構築されている。(図1参照)それは、7要因から読書行動を説明しており、「習慣(habits)」か、「社会的要因(social factors)」と「感情(affect)」、「結果(consequences)」の3要因が関連する「意図(intentions)」が関係性を持っているとし、さらに、「習慣」と「意図」には、「客観的条件(facilitating conditions)」、「覚醒的条件(physiological arousal)」が関連しているとするものだ。(和田 2001)

このモデルにより、和田は、実際の高校生の読書行動は、読書意図よりも習慣の要因の方が大きいこと、さらに読書行動には客観的条件と覚醒条件が同じように関連するこ

と、読書の意図には、感情と高校生独自の社会的要因のほうが結果よりも大きいことを示した。この結果は、朝の10分間読書などのように、「朝10分間だけ、自分の持ってきた本を読む」といった習慣性を身につける読書指導が、理にかなっていることを証明しているのではないだろうか。

さらに、和田は、このモデルを用いて、「大学生の読書に関わる要因を明らかにするため、大学生の読書への接触者と非接触者は、読書に関わる要因が異なる。」という仮説をたてた。質問紙での調査の後、読書の接触者は非接触者よりも、7要因のうち5要因の平均値が高いことを明らかにして、仮説を実証したのである。

また、大学・専門学校生の読書の捉え方、および感情に関して、調査者の共通性と読書量、学校による違いを明らかにした実証的研究がある。(秋田 1992)ここでは、まず、共通性として、思考・知識、空想・感動、気分転換の3内容を読書の意義として重視している事や、感情と読書量、空想・感動、知識・思考という意義と感情や読書量との間にも関連があることが明らかとなった。その上、調査者の中で、よく読書をする者ほど、読書に対してより好意的で、肯定的印象を持ち、意義を高く評価することも実証されている。(秋田 1992)

同じ大学生を対象とした研究では、守が、大学生への読書指導の効果という論文を発表している。守によると、大学生が読書をしない理由として挙げられるキーワードは、「多忙」と「必要性」だという。しかしながら、同調査結果によると、大学生は「多忙」にも関わらず、1日あたりの平均テレビ視聴時間は読書時間の2倍以上もあることが、示された。そこで、守は、学生達が読書よりも、テレビを選ぶ理由をまとめている。(1)テレビは放映時間が決まっている為、読書は後回しにされやすい。(2)テレビのチャンネルは数が限られているが、本は選択肢が多すぎる。(3)テレビは、仲間みんなが同じチャンネルを見るが、仲間と同じ本を読む機会は極めて少ない。(4)本は、一冊一冊、自ら購入しなければならない。(5)テレビは、一度に数人が楽しめるが、本は自分の世界に入り込まないと楽しめない。(6)テレビは、何か他の事をしながら楽しむことができる。の以上6項目である。(和田 2001)

こういったことから、守は、大学生に教科書以外に副読本数冊を指定し、あらかじめ買わせた上で、指定期日までに読ませ、読後にその本についてディスカッションさせる、という読書指導を行い、その効果を、約2年後に測定する実証研究を行った。その結果、課題図書を読ませることが、読書総量を増大させる効果があることを実証した。

その他にも、新聞や雑誌などで、自身の読書体験を語るコラムもあるし、読書をより効果的に行う読書術を伝授する書籍も多く出版されている。

第3節 読書の価値の捉え方

以上のように、多くの読書をテーマにした論文や書籍が、発表されているが、「読書は、良いものである」という事が、前提となっており、一様に読書量が減っている、現在の状況に危機感を持った内容だ。幼児期から高校まで読書教育を受けてきている状況から、読書はよいことという評価を、皆が暗黙のうちに持っているのではないかという考え方が予想されているのである。(秋田 1992)

しかし、齋藤は、著書『読書力』(2002)の中で、読書をするとながよいのかという問いに、読書は自己形成のための糧であるし、読書はコミュニケーションの基礎となるからだと答えている。齋藤によると、読書により培われるのは、矛盾し合う複雑なものを心の中に共存させることだという。自己というものは、物のように確固たる固定的なものではなく、それが一枚岩であれば、1つのものを絶対視するようになってしまう。しかしながら、複雑さを共存させながら、徐々にらせん状にレベルアップしていく。それは、強靱な自己となると述べている。強靱な自己とは、思考停止せず、他者をどんどん受け入れる柔らかさであり、読書によって得られるものである。(齋藤 2002)

さらに、読書でまた、日本には聖書のような唯一絶対的な本、すなわち the Book of Books がないから、たくさんの本を読む必要があったし、このように大量の読書が、いわば宗教による倫理教育の代わりをなしていたといえるのではないだろうかとも述べている。the Book にこだわらず、外国の書籍を含めた大量の Books によって自己形成を図り、価値観を形成し、人間理解力をも身につけてきた歴史が日本にはあるとも述べ、このような高い読書力が日本において倫理観や人間理解力の養成を下支えしていたとすると、現在の倫理観の低下といわれる現象は、読書力の低下と考えられるのではないかと言っている。(齋藤 2002)

しかし、ここでは実証的調査は行われていない。言い換えれば、齋藤が挙げた、自己形成の糧、コミュニケーションの基礎となる読書の価値は、齋藤が読書経験において感じたことなのである。

以上のように、読書の量を測る調査や、読書行動を起こさせる要因を探る研究は多くなされている。しかし、本当に読書には自我にとって価値があるものであるのか、読書をすることで自我が発達するのかという実証的な研究はなされていない。このことから、読書と自我形成において、実証的検証が必要であり、意義があると考えられる。

第4節 研究方法の展望

前節で、読書と自我形成において、実証的検証が必要であると述べた。そこで、自我同一性の達成の程度を測定するための尺度には、立木が開発した関西学院大学版自我同一性尺度 (Ego Identity Scale at Kwansei Gakuin, EISKG, <http://www-soc.kwansei.ac.jp/tatsuki/>参照, 以下EISと省略。) が挙げられる。これは、エリクソンのパーソナリティの個体発達分化理論に基づいている。

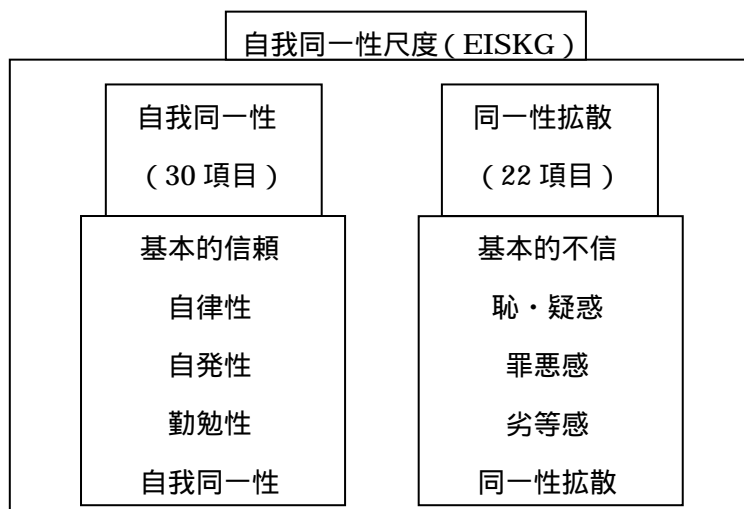


図2 自我同一性尺度のモデル(EISKG)

このEISを用いた研究として、以下の研究が上げられる。栗本と下岡は、曾田ら(1992)による一般中学生の無気力傾向調査の結果を受けて、翌1992年度に関西学院大学社会学部卒業論文として、一般高校生1662名を対象に、自我同一性の発達や、その失敗としての無気力傾向の形成に、家族システムがどのように影響を与えるのかを調査した。

栗本・下岡(1993)は、エリクソンが提唱した自我同一性理論の中に無気力傾向を位置

付けた。エリクソンによれば、青年期とは、幼児期・児童期に家族員との同一化によって作り上げられた自己像から脱皮し、仲間集団や仕事集団、あるいはより大きな社会組織といった 2 次的集団のなかで自己像を再定位させる時期である。しかし、そのためには家族という 1 次集団の中で基本的信頼関係を経験していることが大切である。もし、それがかなわぬ場合、青年は自我同一性を確立することができず、さまざまな同一性障害が生じる。そのような障害の一典型例が青年の無気力症状である。これが、栗本・下岡（1993）の論点だった。立木・栗本（1994）は、栗本・下岡（1993）の高校生調査データを、構造的方程式モデルを用いて再分析している。（立木 1999）

第3章 調査

前章の先行研究によって、本当に読書には自我にとって価値があるものであるのか、読書をすることで自我が発達するのかという実証的な研究はなされていないということが分かった。なぜならば、「読書は価値のあるものだ。」ということが、経験上で語られているからである。そこで、私は「読書をより多くする人は、より自我が発達している。」という概念を仮説として、調査することで実証していきたいと思う。

第1節 調査用具

第1項 読書に対する意識を測る尺度

仮説を実証するため、大学生に対して質問紙調査を行うこととした。まず、被験者の読書に対する価値意識を問う項目は、「知情意」という人間の精神機能を表す言葉を参考にした。

「知」は、理性で働く精神機能であり、規範や知識と大きな関係をもつ。例えば、「～べきだ。」、「～する方がよい。」といったような感情である。例えば、「読書による知識は役に立つ。」、「本を読む人は、人格が形成されている。」といった質問が挙げられる。

次に、「情」は、好きとか嫌いという精神機能である。これらは、「漢字の多い本は嫌い

だ .」,「純文学は難しいと思う .」といった質問だ .

最後の,「意」は,意思を表している .ここでは,本を読もうとする意思のことである .例えば,「一週間に読んだ本の冊数は何冊ですか .」,「一週間に本屋に行く回数は何回ですか .」などの読書に対する量的な項目であり,これに対しては,記入回答を求めた .

この「知情意」で測る,価値意識は 1.まったくそうは思わない 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらともいえない 4.どちらかといえばそう思う 5.とてもそう思う の 5 段階で,回答してもらった .

なお,雑誌や漫画を除いた本を,「書籍」と定義して,質問紙の最初に大きく挿入し,漫画や雑誌と書籍の混同を防ぐようにした .

第 2 項 自我発達の程度を測る EIS 得点と捉え方

どれくらい自我が発達しているのかを測る尺度には,EIS を用い,自我同一性を測ることとした . それでは,EIS の得点をどのように出すのか,ということについて,少し述べておきたい .

EIS による項目でも,5 段階評定で回答を求めた . この 5 段階評定の合計値を基に,EIS 得点を測定するのである . EIS は,自我同一性と同一性拡散から成り立っている . 前者は,基本的信頼や自立性,自発性など,人間を考えるに当たって,比較的ポジティブな感情である . 一方,同一性拡散は,基本的不信,罪悪感,劣等感など,ネガティブな感情だ . そうしたことから,自我同一性で,1.まったくそうは思わない 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらともいえない 4.どちらかといえばそう思う 5.とてもそう思う と答えた項目は,そのまま得点として加算することにした . 逆に,同一性拡散は,1.まったくそうは思わない 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらともいえない 4.どちらかといえばそう思う 5.とてもそう思う と答えるのは,自我同一性と同じであるけれども,1 と答えた場合は得点 5,2 と答えた場合は得点 4 という風に逆項目を作ることとした .

その作業が終わった後で,この調査では,自我同一性項目で得た得点と,同一性拡散項目で得た得点を合計した上で,被験者の EIS 得点を計算することとする . つまり,簡単に言えば,被験者が自我同一性項目で得た得点から,同一性拡散項目で得た得点を引くようなものということである .

それによって,EIS 得点が,高ければ高いほど,被験者の自我は確立していると捉える

ことができる。

第3項 その他の質問項目

さらに、被験者の大学生が普段、どのような書籍に触れ合っているのかを、調べるために、自由解答欄を設けて、最近読んだ書籍や、普段接する雑誌と漫画を自由に記述してもらった。

質問紙には、問4「あなたが日常的に接する本について伺います。」で、書籍と雑誌・漫画を分けて、最近接した本について、自由に記述してもらった。なお、書籍とは、漫画と雑誌を除いた書籍であり、質問紙の初めに太字で、「ここでの、書籍とは漫画と雑誌を除くものを指し、読書とは、漫画と雑誌を除くものを読むことを指します。」と注意書きを就けた。また、最近触れた書籍については、レポートや授業で接した本は除外してもらっている。さらに、雑誌や漫画について解答を求めた項目では、毎回必ず読むものには をつけてもらい、読んでいるものには をつけてもらうようにした。

以上より、属性を尋ねる項目が3項目、「読書をする」という意識を測る独立変数を測る量的な項目が12項目、EISによる自我同一性を測る項目が52項目、書籍を自由記入してもらう項目が2項目の計69項目であった。質問項目の具体的な内容は付録に示した。

第2節 調査の枠組み

第1項 調査対象者

調査対象は、同志社大学の2003年度春学期において、指導教官である立木が指導していた家族社会学の受講生52名(男性32名、女性20名)とした。男女の違いや学年、学部において極端な偏りが出ないからである。彼らにEISの尺度、知情意を参考として作成した3つの尺度からなる質問紙を、家族社会学の授業前に1人1枚ずつ配り、回答してもらった。

もし、仮説が実証されるのであれば、読書をより多くすればするほど、自我がより発達しているということとなる。すなわち、読書すればするほど、EISの得点が高いというこ

となり、さらに、読書量や意識と EIS により何らかの相関性が見出されるはずである。

第 2 項 データ分析の展望

以上のことを、踏まえた上で、データ分析について述べる。この節では、仮説が立証される場合、被験者が読書を多く行っている、また、読書に対する何らかの価値意識が、EIS の得点と何らかの相関性を持った結果が出てくるといった事を述べてきた。本項では、その相関性をどのように分析するのか、といったことについて説明したいと思う。

質問紙で得られたデータは SPSS ソフトにより集計することとした。なぜならば、読書に対する価値意識を問う項目を、知情意を参考に作成したのであるが、それが本当に読書行動に結びつく項目であるかどうか確信が持てなかったからである。もしかすると、思ってもみなかった要因が、出てくるのかもしれない。そこで SPSS を用い、因子分析を行うこととした。この因子分析については、後に説明する。因子分析の後、SPSS をさらに用いて、相関関係を探ることとしたい。

第 3 節 調査の具体的手続き

被験者は、家族社会学の受講生 52 名（男性 32 名、女性 20 名）である。この日は、ちょうど試験日と言うこともあり、多くの受講生が教室に来ていた。

調査対象者に対して、2003 年 7 月 14 日の家族社会学の授業前に、『大学生の読書量と自我形成の関係性についての質問紙』という名目で、被験者に質問紙を配り、自由記入、無記名のうえ回答してもらった。

なお、調査に当たっては、「この調査は皆さんの読書量が自我形成にどうかかわっているのか調べるものです。この調査によって、個人が特定されることはありませんので、ありのままを答えて下さい。」と述べ、その後、私と TA (teaching assistant) により、全員の回答を待って、回収を行った。そのため、回収率はほぼ 100%であったと考えられる。質問紙を回収したすぐその後、研究室に帰り、ナンバリングを行った。

第4章 結果

第1節 大学生はどんな本に普段触れているのか。

結果を分析するに当たって、まず初めに、大学生が普段一体どのような書籍や雑誌に触れているのかを、整理することにした。

まず、雑誌・漫画の項目の集計をされていて感じたことは、大学生は雑誌をよく読んでいるということである。書籍と雑誌・漫画は、項目を分けていたが、書籍の欄は空白である学生は、何名も見られたものの、雑誌・漫画の欄を空白にするものは、ほとんどいなかった。

第1項 漫画・雑誌

表1 回答にあった雑誌・漫画の集計

non-no	10
関西ウォーカー	10
週刊少年ジャンプ	8
週刊少年マガジン	7
関西一週間	6
MORE	5
smart	5
ザ・テレビジョン	3
サッカーマガジン	3
サッカーダイジェスト	3
NUMBER	3
NANA	3
その他	116
	(人)

私の調査において、人気があった雑誌は、女性ならば『MORE』(5名)や『non-no』(10名)、男性なら、『smart』(5名)といったようなファッション誌であった。さらに、『関西ウォーカー』(10名)や、『関西一週間』(6名)、『ザ・テレビジョン』(3名)などの情報誌が、多くの人気を集めていた。

また、『週刊少年ジャンプ』(8名)、『週刊少年マガジン』(7名)、『サッカーマガジン』、『サッカーダイジェスト』、『NUMBER』(各3名)といったように、漫画や自分の趣味の雑誌にも、多くの回答が得られた。

漫画は、『NANA』(矢沢あい 集英社)(3名)に多くの票が集まったものの、『週刊少年ジャンプ』や『週刊少年マガジン』のように、集中した人気が集まったものは、この他には見られず、漫画自体をコミックスで読んでいる顕著な傾向は見られなかった。

以上のような結果から、大学生は、ファッションや遊び・生活などの情報、さらに自分の趣味の情報までを、雑誌から得ていると言えるのではないだろうか。

第2項 書籍

表2 回答にあった書籍の集計

ハリーポッターシリーズ	5
ノルウェーの森	3
沈まぬ太陽	3
アムリタ	2
キッチン	2
TSUGUMI	2
スプートニクの恋人	2
Itと呼ばれた子	1
白い犬とワルツを	1
ふたり	1
三四郎	1
門	1
それから	1
その他	108
	(人)

最初に驚いたことは、大学生は現在読書量が減っていると言われているのに、多くの学生が、何らかの本を読んでいると答えていることだ。しかし、前項の雑誌・漫画と同じような集計を、書籍の項目でも行ってみたのだが、雑誌や漫画のように集中した人気を集めた書籍は、少なかった。

人気が集まった書籍を挙げると、『アムリタ』、『キッチン』、『TSUGUMI』の吉本ばなな氏が書いた小説に各2人答えた。また、『ノルウェーの森』(3名)、『スプートニクの恋人』(2名)

から、村上春樹氏の人気が伺える。『沈まぬ太陽』(山崎 豊子)も3名が挙げており、人気が高かった。特筆すべき人気が集まったのは、5名が挙げた『ハリーポッターシリーズ』ぐらいである。後は、1人ずつしか挙げていない書籍が114冊見られた。

私を感じたのは、現代の大学生は、『Itと呼ばれた子』、『白い犬とワルツを』、『ふたり』などのベストセラー小説は何冊か挙げられていたものの、純文学を読んでいないということである。『三四郎』、『門』、『それから』(夏目漱石)を挙げた人はいる。しかし、その他には、純文学は1票も入っていなかった。

このような結果より、現在の大学生は、読書量はまったくないとは言えないものの、若者向けの人気作家に、人気が集中している。さらに、純文学に比べて、ベストセラー小説を好む傾向が顕著にみられた。

第3項 第1節のまとめ

以上のように、大学生が普段どのような本に触れているのかを、雑誌・漫画と書籍に項目を分けて、分析してみた。このことを、ここで少しまとめておきたい。

現在の大学生は、書籍よりも雑誌・漫画を好む傾向があるものの、決して書籍を読む量が減っているとは言い切れなかった。しかしながら、大学生は雑誌から、ファッション、

生活，趣味の情報を得ており，雑誌は大学生の生活に欠かせないものであることが考えられる．

書籍においては，書籍の項目を空欄にしている被験者が 3 名ほどしかいなかった．このことより，読書離れが，言われているほど進んでいるということは見受けられなかった．しかし，大学生が読む書籍とは，ベストセラー小説や若者に人気の作家であり，純文学と呼ばれるような小説は避けられる傾向にあることがわかった．

第 2 節 実際の因子分析

ここからは，実際に私が行った因子分析について，述べていきたい．

第 2 章で，被験者の読書に対する価値意識を問う項目は，「知情意」という人間の精神機能を表す言葉を参考にしたと述べたのだが，まず，初めに，知情意を問う項目の中で，否定的な感情を問う項目を逆回転にかけた．なぜならば，これらは読書に対する否定的な感情を問う項目であるため，回転をかけた後の成分行列表が，マイナスとなってしまう，以後の分析の便宜上，都合が悪くなってしまうからである．

逆回転をかけた項目は，問 3-12「漢字の多い書籍は嫌いだ．」，問 3-13「タイトルが難しそうな書籍は避けがちである．」，問 3-14「純文学は難しい．」，問 3-15「分厚い書籍は嫌いだ．」，問 3-17「書籍を買うぐらいなら，他のことに使いたい．」，問 3-19「読書をする時間があるなら別のことをしていたい．」の合計 6 項目である．以上，逆回転をかけた 6 項目を含む 20 項目を SPSS ソフトで，バリマックス回転にかけた．

すると，因子は，最初予測していた「知情意」の 3 つの関係とは異なり，2 つに定められた．(表 3 参照) なお，表中の 印は逆回転をかけた項目である．

表3 回転後の成分行列表

回転後の成分行列(a)			
	成分		共通性
	1	2	
q3-02 読書をすればするほど、人格が向上する。	0.857	-0.049	0.736
q3-06 読書は人生を豊かにする。	0.739	0.417	0.72
q3-08 読書はする価値のあるものだ。	0.725	0.227	0.577
q3-09 読書により、知識をつけることは良いことだ。	0.723	0.124	0.538
q3-07 読書をよくする人には想像力がある。	0.717	0.091	0.522
q3-01 自分の成長には読書は必要だ。	0.671	0.428	0.633
q3-03 読書はしておく方が良い。	0.655	0.314	0.527
q3-10 読書をよくしている人は、人格が向上している。	0.654	0.075	0.433
q3-04 賞を取った書籍には価値がある。	0.617	0.002	0.38
q3-11 はやっている書籍は読みたい。	0.590	-0.142	0.368
q3-19※ 読書をする時間があるなら別のことをしたい	0.278	0.809	0.732
q3-15※ 分厚い書籍は嫌いだ。	0.035	0.805	0.648
q3-17※ 書籍を買うぐらいなら、他のことに使いたい。	0.240	0.774	0.655
q3-14※ 純文学は難しい。	-0.111	0.714	0.522
q3-13※ タイトルが難しそうな書籍は、避けがちである。	-0.132	0.708	0.518
q3-16 読書は好きだ。	0.389	0.706	0.649
q3-18 時間をつくって、読書したい。	0.397	0.702	0.649
q3-12※ 漢字の多い書籍は嫌いだ。	0.022	0.653	0.427
q3-05 読書により得た知識は役に立つ。	0.395	0.573	0.483
q3-20 国語は好きだ。	0.045	0.356	0.128
因子抽出法: 主成分分析 回転法: Kaiser の正規化を伴わないバリマックス法			
a	3 回の反復で回転が収束しました。		

その2つについて、各々説明してみる。まず、問3-2「読書をすればするほど、人格は向上する」から、問3-11「はやっている書籍は読みたい」までの設問に関係が認められる項目は、「価値」と「人格」、「人生」というキーワードから「活字の読書が人生において価値があると考える因子」と名づけた。

また、問3-19「読書をする時間があるなら別のことをしたい」から、問3-20「国語は好きだ」までは、「嫌い」、「嫌だ」というキーワードから「活字の読書が嫌いで本を読まない因子」とした。(以下、読書嫌い因子と省略)しかし、ここで注意して欲しいのは、この因子は、「活字の読書好きで本をよく読む」因子の、逆項目であるということである。ちなみに、これら2つの因子のクローンバックアルファ値は、前者0.8816、後者0.8811であった。

この結果からは、因子が予測していた「知情意」の3項目には、合致しなかった。だが、「活字の読書が人生において価値があると考える。」因子は「知」を表しているといえる。さらに、「活字の読書が嫌いで本を読まない因子」は、「活字の読書好きで本をよく読む」

の逆である為、「情」・「意」を表すものあるといえる。

第3節 仮説の検証

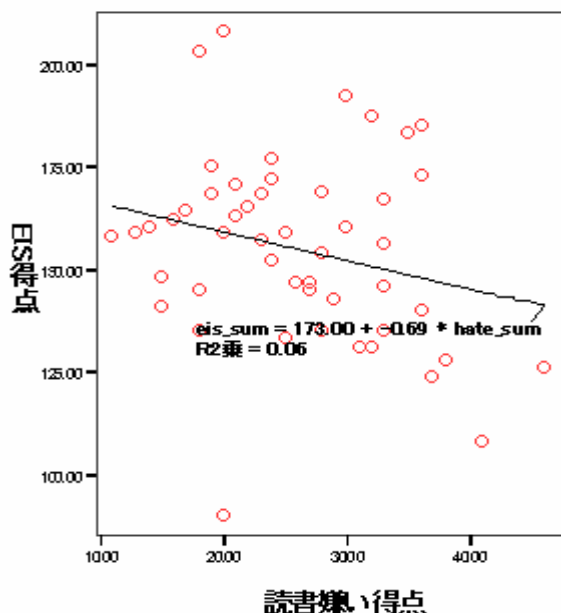


図3 読書嫌い得点とEIS得点の相関図
て、X軸（横軸）に、「読書嫌い」因子

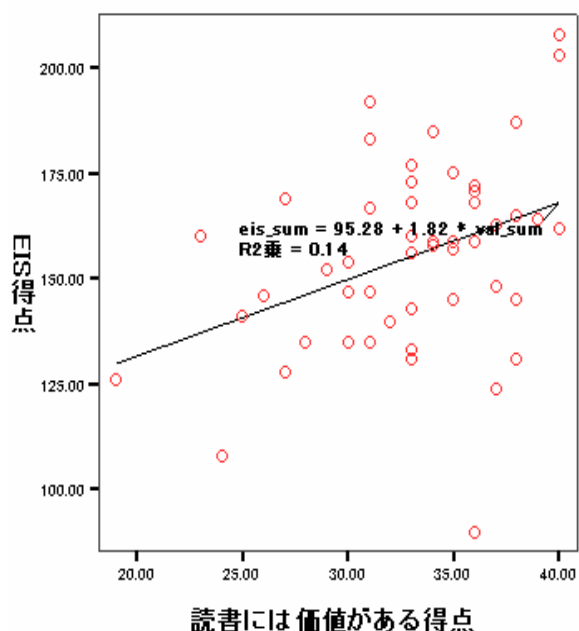


図4 読書には価値がある得点と
EIS得点の相関図

また、図4を見てみよう。被験者の「活字の読書が人生において価値があると思う。」

因子分析の結果より、「読書嫌い」因子と被験者のEIS得点が反比例、「活字の読書が人生において価値があると思う。」因子と被験者のEIS得点が正比例すると、「読書をしている人は自我が確立している」という仮説が、成り立つこととなる。

EISは、自我同一性と同一性拡散から成り立っており、その処理の仕方は前に述べた。その方法で、被験者のEIS得点をSPSSソフトで計算した。そし

と「活字の読書が人生において価値があると思う。」因子を置き、Y軸（縦軸）に被験者のEIS得点を置いて、相関関係があるかどうかを調べるグラフを2通り作成した。そのグラフについて述べていきたい。

図3を見て欲しい。この図は、被験者の「読書嫌い」得点と、EIS得点の相関関係を調べたものである。これを見ると、R2乗値が、0.06あり、「読書嫌い」得点と、EIS得点に相関性が見られることが分かった。

得点（ここでは、読書には価値がある因子と省略している。）と EIS 得点も、相関性を持っていることが分かった。なお、R2 乗値は 0.14 であった。

以上より、「読書嫌い」因子と、「活字の読書が人生において価値があると考える。」因子が、共に被験者の EIS 得点と相関性を持つといった結果が導き出せた。

ゆえに、最初に立てた「読書をより多くしている人は、より自我が確立しているという」仮説は立証されたのである。

第 5 章 考察

第 1 節 社会圏としての読書

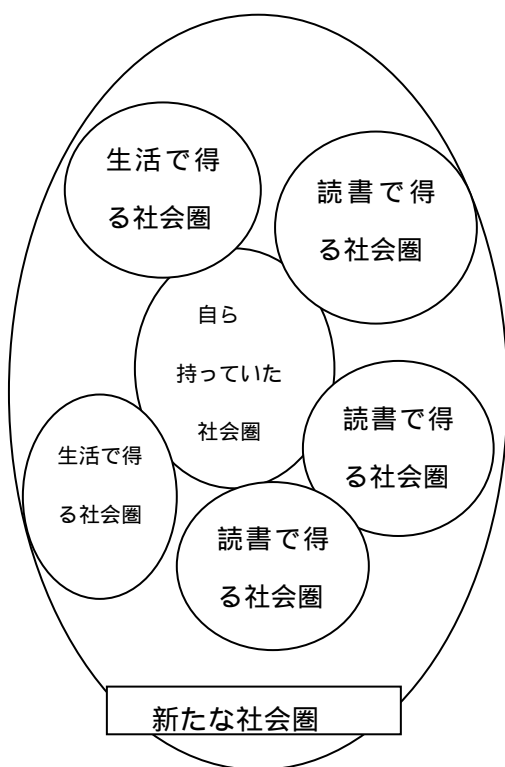


図 5 読書で得られる社会圏モデル

前章で、最初に立てた「より多く読書をしている人は、自我がより確立しているという」仮説は立証され、さらに、精神機能上の「知」と「情」・「意」が作用していることが明らかになった。このことより、本章では、考察を進めていきたいと思う。

どうして、読書をすることで自我が発達するのだろうか。ドイツの社会学者、G.ジンメル (Georg Simmel, 1858-1918) は、社会生活の諸領域や種々の場面が分化し、それらを包括する社会の広がりがますます大きくなっていく社会の一般的な傾向のもとで、人々はさまざまな集団を形成して、いろいろな集団に重なりながら所属して生きるという方式をとるようになったと説明した。つまり、この

ような分化が進む社会と個人との構造的な関係を、人々の集団への重層的な所属として捉えたのである。この特徴は、人々の生活が各種の集団を遍歴する過程として成り立っていることを意味する。(新 2001) そのため、人々は属する圏が増大することとなるのだが、

それに伴い、属する複数の社会圏の交点に自己をおき、属する社会圏を交錯させていた。これを社会圏の交錯（Kreuzung der sozialer Kreise）と呼び、この中で人々は個々の「個性」を発達させ、それぞれの生活場面に応じて自分の個性を示し、強固な自我意識を持つようになる。ジンメルは述べた。

このジンメルの理論を用いて考えてみると、読書とは作者が書籍のなかで形成する社会圏と接する時間と言えるのではないだろうか。読書をすることで、自分が所属する圏が知らず知らずのうちに増大し、その属する複数の社会圏の交点にしているのであろう。（図5参照）

このようなことが、今まで私が言われ続けてきた「読書は自分を広げるもの」ということではないだろうかと感じる。読書を行うことで自分が所属する社会圏が増大しているのであるが、社会圏の増大は、読書をしたその場で増大したことを実感するのは難しい。だから私は、最初言われていたことに気がつかなかったのだろう。しかしながら、今その言葉の意味がわかってきたように思う。

自分の人生において何らかの岐路に立ったときや、困難にぶつかった時など、人生に「考える」ことは尽きない。そういった時に、自分の行動の指針となる情報は多いに越したことはない。その「考える」ための指針とは、人生の中で得てきた社会圏から得るものであり、接した社会圏が多いほど、「考える」ための指針が多いのだ。

さらに、社会圏が増大することによって、前述の社会圏の交錯も多く起こるようになる。ここで人々は個々の「個性」を発達させ、それぞれの生活場面に応じて自分の個性を示し、強固な自我意識を持つようになる。これは、多くの社会と接することで、自らを客観的に省み、生活の中で実践していくというサイクルが出来上がっているということだと思う。自らを客観的に見つめるということは重要なことだ。なぜならば、それは他者を意識した行動だからである。

読書をしなくとも、毎日の生活の中でジンメルの言う社会圏は、増大していくことは可能であるが、読書は少ないリスクで社会圏を増大させることができる。なぜならば、読書では自分の行くことができない世界や、言葉の通じない海外の文化をも疑似体験できるからである。それゆえ、読書は効率的に社会圏を増大させる手段であるのだ。

第2節 これからの読書

これまでの調査によって、読書には自我形成において価値があり、精神機能上の「知」と「情」・「意」が作用していることが明らかになった。この結果は、「読書への価値」や「好き・嫌い」といった感情が、読書に作用しているということを意味する。

読書には自我形成において価値があるのだから、現在、小中高校で広がっている朝の10分間読書運動は、自我形成に大いに役立っていると言える。また、守（1991）の行った研究である大学生に課題図書を読ませ、読書指導をすることも、有効である。なぜならば、課題図書の活用は「知」の部分に作用しているからである。

今、読書をしないとされている大学生が読書もっと行うためには、この守が行った研究に加えて、朝の10分間読書のように、「静かに読む」、「ただ好きな本を読むだけ」といった緩いルールにのっとり、大学生に読書指導すること重要なのではないかと考える。というのは、読書の「好き」・「嫌い」が読書行動に大きな相関性を持っているからである。しかし、ただそれだけではなく、読み手が読書に対して何らかの「価値意識」を持つことも重要である。

大学生には、まず、読書を好きになってもらうことが始まるのではないだろうか。もし、そうすることで、読書が何らかの指針となることに気付けば、読書に「価値意識」を感じるようになると思う。その結果、ジンメル理論にあるような社会圏の増大が起こることにより、自我が発達していくのである。

（40字×30行、本文23ページ、400字詰め原稿69枚）

付録

「大学生と読書量における自我形成の関係性」についての
質問紙

ここでの、書籍とは漫画と雑誌を除くものを指し、
読書とは、漫画と雑誌を除くものを読むことを指します。

問1 まず、あなた自身について、お伺いします。

- | | | | | | |
|------|--------|----------|--------|--------|--------|
| 1 性別 | 1. 男 | 2. 女 | | | |
| 2 学年 | 1. 1回生 | 2. 2回生 | 3. 3回生 | 4. 4回生 | 5. その他 |
| 3 生活 | 1. 自宅生 | 2. 一人暮らし | 3. その他 | | |

問2 あなたの読書について、お伺いします。

- 1 あなたの読書にあてる時間は、一週間どの程度ですか。
(時間)
- 2 あなたは週に何冊書籍を読みますか。
(冊)
- 3 あなたは週に何冊雑誌・漫画を読みますか。
(冊)
- 4 あなたが購入する書籍にかかる費用は、あなたの自由に使えるお金のおよそ何%ですか。
(%)
- 5 あなたは書籍を買いに、週に何回本屋に行きますか。
(回)
- 6 あなたは漫画や雑誌を買いに、週に何回本屋に行きますか。
(回)
- 7 あなたは1ヵ月およそ何冊の書籍を買いますか。
(冊)

8 あなたは1ヵ月およそ何冊の漫画や雑誌を買いますか。
(冊)

9 現在，所有するあなたの書籍は何冊ですか。
(冊)

9 あなたは1ヵ月何回ほど，図書館に行きますか。
(回)

10 あなたは主にどんな理由で，図書館に行きますか。簡単にお答え下さい。
()

11 あなたは「読書会」に参加したことが，ありますか。
1. ある 2. ない 3. 「読書会」自体を知らない

問3 あなたの読書に対する意識について、お伺いします。

まったく	そうは思わない	どちらかといえば	そう思わない	どちらともいえない	どちらかといえば	そう思う	とてもそう思う
------	---------	----------	--------	-----------	----------	------	---------

- | | | | | | |
|----------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. 自分の成長には読書は必要だ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 読書をすればするほど、人格が向上する。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 読書はしておく方が良い。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 賞を取った書籍には価値がある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 読書により得た知識は役に立つ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 読書は人生を豊かにする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. 読書をよくする人には想像力がある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 読書はする価値のあるものだ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 読書により、知識をつけることは良いことだ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 読書をよくしている人は、人格が向上している。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

まったく	そうは思わない	どちらかといえば	そう思わない	どちらともいえない	どちらかといえば	そう思う	とてもそう思う
------	---------	----------	--------	-----------	----------	------	---------

とともそう思う	そう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	そう思わない	どちらかといえば	そうは思わない	まったく
---------	------	----------	-----------	--------	----------	---------	------

- | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|---|---|---|
| 11. はやっている書籍は読みたい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. 漢字の多い書籍は嫌いだ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. タイトルが難しそうな書籍は、避けがちである。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14. 純文学は難しい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15. 分厚い書籍は嫌いだ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16. 読書は好きだ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17. 書籍を買うぐらいなら、他のことに使いたい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18. 時間をつくって、読書したい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19. 読書をする時間があるなら別のことをしてきたい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20. 国語は好きだ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

とともそう思う	そう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	い	そう思わない	どちらかといえば	そうは思わない
---------	------	----------	-----------	---	--------	----------	---------

問4 あなたが日常的に接する本についてうかがいます。

1. あなたが読む雑誌や漫画について、必ず読むもの（立ち読みや借りたりするものも可）に、読むものに を付け、何冊でも挙げて下さい。

例) JJ
関西ウォーカー

2. あなたが最近、学校のレポート課題やテスト勉強に関係なく読んだ書籍（漫画や雑誌は除きます。）を、何冊でも挙げて下さい。

例) ハリーポッターとアズカバンの囚人
模倣犯

まったく	そうは思わない	どちらかといえば	そう思わない	どちらともいえない	どちらかといえば	そう思う	とてもそう思う
------	---------	----------	--------	-----------	----------	------	---------

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 私は、自分自身をいつも信頼している。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 | 普通、人間はお互いに正直に、かつ誠実に関わり合っているものだ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3 | 私は成長し続けて、魅力的な人間になると思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4 | | | | | | |
| 5 | 私は確かな未来に向かって、一步一步進んでいる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 自分にとって意味のあるものを手にいれるためには時間がかかるとしてもかまわない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7 | 私は、自分の個性を自由に表現できない生活に埋もれてしまうことが一番いやだ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8 | 私は、自分の欲求や衝動をコントロールできる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9 | 私はいつも、自分で物事を選択し、決定することに自信を持っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

まったく	そうは思わない	どちらかといえば	そう思わない	どちらともいえない	どちらかといえば	そう思う	とてもそう思う
------	---------	----------	--------	-----------	----------	------	---------

とてもそう思う	そう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	そう思わない	どちらかといえば	そうは思わない	まったく
---------	------	----------	-----------	--------	----------	---------	------

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 10 私は、他人とは関係なく、いつも正しい決定を下すことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11 いったんこうと決めたことについて後悔しない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12 私がこれまで決めたことは、たいてい正しかった。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13 たいていの場合、私が決めたことは後悔しない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14 今の自分は 私の人生にとってかけがえのない重要な存在である。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14 自分のやっていることは、意味のあることだ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15 10代の時期にクラブなどの集団活動に参加しなかった人は損をしていると思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16 私は、目標を達成するためならばどんな困難なことでもやり通すことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

とてもそう思う	そう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	そう思わない	どちらかといえば	そうは思わない	まったく
---------	------	----------	-----------	--------	----------	---------	------

まったく	そうは思わない	どちらかといえば	そう思わない	どちらともいえない	どちらかといえば	そう思う	とてもそう思う
------	---------	----------	--------	-----------	----------	------	---------

- 17 私は、人間は、価値という点では平等だと信じている。 1 2 3 4 5
- 18 私は、他の人が悪いことをしようとしているところを見つけたときには、それを絶対に許せない。 1 2 3 4 5
- 19 私の生きがいのよりどころは、仲間や仕事（勉強）、芸術的な創造にある。 1 2 3 4 5
- 20 私は、自分が何かに役だっていると感じる。 1 2 3 4 5
- 21 私は、落ち込んだり困ったりしている人を元気づけたりなくさめたり、相談にのったりすることは非常によいことだと思う。 1 2 3 4 5
- 22 一つのこと集中するのは、難しいことではない。 1 2 3 4 5
- 23 私は仕事の出来ばえ（成績）が他の人のそれと比較されるなら頑張ろうと思う。 1 2 3 4 5
- 24 達成したときに大きな喜びが得られるから、難しいことに挑戦するのは好きだ。 1 2 3 4 5

まったく	そうは思わない	どちらかといえば	そう思わない	どちらともいえない	どちらかといえば	そう思う	とてもそう思う
------	---------	----------	--------	-----------	----------	------	---------

とてもそう思う	そう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	そう思わない	どちらかといえば	そうは思わない	まったく
---------	------	----------	-----------	--------	----------	---------	------

- 25 私は他の人にとって、とても話しかけたり、相談しやすい人間のようだし、自分でもそう思う。 1 2 3 4 5
- 26 私は、自分の考えややり方が他の人と食い違うように思い、自信を失うことが多い。 1 2 3 4 5
- 27 将来の目的のためや、欲しいものを手にいれるために、現在の楽しみをあきらめることはいやだ。 1 2 3 4 5
- 28 私は、欲しいものは我慢できずに今すぐ欲しいと思う。 1 2 3 4 5
- 29 子どもは動物のように押さえつけたり、機械のように調整しなければならぬと思う。 1 2 3 4 5
- 30 何か重大なことを決めなければならないときには、いつも両親に頼る。 1 2 3 4 5
- 31 物事をうまくやりとおしたいと思っているのに、うまくいかないことが多い。 1 2 3 4 5
- 32 他人は私のことをどう思っているか、といったことがいつも気になる。 1 2 3 4 5

とてもそう思う	そう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	そう思わない	どちらかといえば	そうは思わない	まったく
---------	------	----------	-----------	--------	----------	---------	------

とてもそう思う	そう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	そう思わない	どちらかといえば	そうは思わない	まったく
---------	------	----------	-----------	--------	----------	---------	------

- 33 私はいつも何かに追われているのに、空回りばかりでうまく前に進んでいけないように思う。 1 2 3 4 5
- 39 私は、子どもの頃の失敗や、将来の不安ばかり考え、現在の生活にやる気がなくなってしまう。 1 2 3 4 5
- 40 私にしてみればうまく課題をこなせたときでも、他の人はそれを理解したり認めてくれたりしないような気がする。 1 2 3 4 5
- 41 私は他の人ほどうまくチャンスをつかめないような気がする。 1 2 3 4 5
- 42 私は人と話すとき、相手をからかったり余計な口出しをしたりしないと、どうもうまく話せないように思う。 1 2 3 4 5
- 43 いろいろな生き方があるということが、よく分からない。 1 2 3 4 5
- 44 これまでに身につけたやり方や考えを、これからの自分にどう結び付けたいのか分からない。 1 2 3 4 5

とてもそう思う	そう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	そう思わない	どちらかといえば	そうは思わない	まったく
---------	------	----------	-----------	--------	----------	---------	------

とてもそう思う	そう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	そう思わない	どちらかといえば	そうは思わない	まったく
---------	------	----------	-----------	--------	----------	---------	------

- 45 私は「理想の自分」がたくさんあって、どれが本当に「なりたい自分」なのか分からない。 1 2 3 4 5
- 46 私は、自分自身のことがよく分からなくなっている。 1 2 3 4 5
- 47 私は自分の人生で、一体本当に何がしたいのか、はっきり分からない。 1 2 3 4 5
- 48 他人とは気楽にうまくやっていかなければならないと思うが、必要以上に親しくなることもないと思う。 1 2 3 4 5
- 49 私は、絶対に自分の感情を人に知られたくない。 1 2 3 4 5
- 50 一緒に活動してきた人を、たとえ好意をもっていても、本当に知ることはなかったと思う。 1 2 3 4 5
- 51 他人とは親しくなりすぎないほうがよい。 1 2 3 4 5
- 52 私は、自分さえよければ、あとはどうでもいいと思う。 1 2 3 4 5

とても	そう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	そう思わない	どちらかといえば	そうは思わない	まったく
-----	------	----------	-----------	--------	----------	---------	------

参考文献 引用文献

秋田 喜代美 1992

「大学生の読書に対する捉え方の検討 - 読書量と捉え方, 感情の関連性 - 」

『読書科学』36(1) 11-21

新 睦人 2001 『社会学理論 2001 年度版授業ノート』

Georg Simmel 1975 『社会文化論 社会学』(居安 正訳) 青木書店

林 公 高文研編集部 1996 『続・朝の読書が奇跡を生んだ』 高文研

平賀 増美 1973

「大学生の読書傾向とその意識」

『亜細亜大学教養部紀要』 8 35-52

毎日新聞東京本社広告局 2003 『読書世論調査 2003 年度版』

守 一雄・川島 和夫 1991

「大学生への読書指導の効果 - 副読本とディスカッションによる読書指導」

『読書科学』35(3) 104-110

斎藤 孝 2002 『読書力』 岩波書店

佐藤 陽子 1993

「大学生の読書調査 - 大学生の“読書”はどう変わったのだろうか」

『現代の図書館』31(5) 40-44

『社会学小事典』 2001 有斐閣

立木 茂雄 1999

『家族システムの理論的・実証的研究 - オルソンの円環モデル妥当性の検証』 川島書店

豊田秀樹・前田忠彦・柳井晴夫 1992

『原因を探る統計学 共分散構造分析入門』 講談社

和田 正人 2001

「大学生の読書への接触・非接触要因に関する実証的研究」

『東京学芸大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』25 75-84

渡辺 健一郎 1999

「大学生と読書(平成10年度私立大学図書館協会西地区部会研究会講演・研究発表記録)」

『私立大学図書館協会会報』112 145-158

山梨 あや 2001

「近代化と「読み」の変遷 - 読書を通じた自己形成の問題 - 」

『慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要』52 71-84

(40字×30行, 本文23ページ, 本文400字詰め原稿69枚)